

## 平成24年度からの「土佐さきがけプログラム」の実施について(予告)

平成24年度入試から「土佐さきがけプログラム」(新しい特別教育プログラム)を開設します。

### ◆「土佐さきがけプログラム」とは・・・

「土佐さきがけプログラム」とは、高知大学のこれまでの教育・研究の実績や特色を活かした上で、従来の学部・学科等のカリキュラムから独立した、時代を先駆ける新しい高知大学独自の教育プログラムです。

「土佐さきがけプログラム」では、これまでの学部や学科・コース等での学びにとどまらず、関連する様々な分野の学問を横断的かつ総合的に学ぶ特色ある独自のカリキュラムが準備されています。これらを学ぶことで、様々な分野に関連する幅広い知識(基礎力)や、それらを組み合わせて物事を考える力(応用力)を身につけ、地域社会の課題から国際問題、環境問題など、現代社会が抱える様々な課題の解決に積極的に取り組む社会のリーダー、すなわち幕末の志士坂本龍馬のように、時代の一步先を進む人材の育成を目指します。

「土佐さきがけプログラム」では、それぞれが育成すべき人材像に適した学際的かつ体系的なカリキュラムにより教育する一方、卒業論文研究では研究分野や指導教員の選択をある程度学生の自由に任せるなどの特色があります。

「土佐さきがけプログラム」は、平成24年度から順次いくつかのコースが開設される予定ですが、平成24年度からは、まず以下に示す3つのコースが始まります。

### ①グリーンサイエンス人材育成コース(推薦入試Ⅱ)

#### 設置の目的と育成する人材像

化学を基盤とし、環境に配慮した技術開発・学際研究(グリーンサイエンス研究)を通じて、国際的に通用する高度な専門知識や技術を身につけた、環境問題や資源問題などの解決に貢献できる人材を育成することを目指します。

#### 教育の特色

- 化学を総合的かつ体系的に履修して化学の基礎を身につけ、少人数で多くの研究実験を行い、化学者としての技量を高めます。
- 入学後の早い時期から、高知大学で実施されている最先端の研究に参加し、課題探求能力や問題解決能力を高めます。
- 学部で4年間学んだ後は2年間の大学院修士課程へ進学することを前提とし、学部から大学院まで、6年一貫の特別なカリキュラムの中で、広い知識と高度な技術を習得します。

#### アドミッション・ポリシー(求める学生像)

地球環境を取り巻く諸問題を科学的にとらえて解決しようとする意欲や、人類の発展のためにみずから積極的に化学を学ぼうとする意志があり、探求心旺盛な学生を求めます。

#### 募集人員及び出願資格

募集人員	出願資格
5人	高等学校(注)を平成22年4月から平成24年3月までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者で、次の各号に該当する者 (1)調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (2)学校長が責任を持って推薦できる者、既に高等学校を卒業(修了)した者においては、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者

(注)中等教育学校、高等専門学校(3年次)、及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含む。なお、学校長が推薦できる人員に制限はありません。

## 入学者の選抜方法

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）	
大学入試センター試験の利用教科・科目（注1）	個別学力検査等の教科・科目等
<b>5教科 7科目</b> 国（国語） 地歴・公民（世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1） 数（「数Ⅰ, 数Ⅰ・数Aから1」と「数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 工, 簿, 情報から1」）（注2） 理（理総A, 理総B, 物Ⅰ, 化Ⅰ, 生Ⅰ, 地学Ⅰから2） 外（英（注3）, 独, 仏, 中, 韓から1）	口頭試験を含む面接
（注1）大学入試センター試験の利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超過して受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。 （注2）大学入試センター試験の「数学」の教科について『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目（ただし、『情報関係基礎』については、普通教科及び学校設定科目以外の『情報に関する科目』）を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る。 （注3）大学入試センター試験の「外国語」の教科について「英語」は、リスニングを含む。	

## ②国際人材育成コース(AO入試)

### 設置の目的と育成する人材像

英語・中国語・日本語などを駆使し、高い国際コミュニケーション力とともに、文化的・歴史的背景による価値観の違いを乗り越えて自文化と異文化を理解する心を持ち、国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目指します。

### 教育の特色

- 日本人学生と外国人留学生が同じプログラムの中で共に学ぶことで国や文化の違いを超えて相互理解をめざす姿勢を身につけます。
- プログラム前半の2年間では語学力の向上と異文化理解に重点を置き、後半の2年間では国際経済に関する専門知識を中心に学びます。
- 日本人学生の場合は海外協定校への留学や海外インターンシップ、外国人留学生の場合には国内留学や国内企業でのインターンシップを行い、グローバル化の進む社会で活躍できる実践力を身につけます。

### アドミッション・ポリシー（求める学生像）

- （1）英語、中国語、日本語等の語学に興味があり、それらを駆使して国際社会に貢献する意欲のある人。
- （2）自文化と異文化をともに理解しようとする意欲があり、平和な人類の未来を創造することに関心のある人。
- （3）上記の資質を活かして、国際的に活躍する意志のある人。

## 募集人員及び出願資格

募集人員	出願資格
<p>10人</p> <p>日本人学生等と外国人留学生を併せて10人</p>	<p>【日本人学生等】</p> <p>次のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は平成24年3月卒業見込みの者</p> <p>(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は平成24年3月修了見込みの者</p> <p>(3)学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条(第6号及び第7号を除く)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は平成24年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p> <p>上記の(3)に該当する者は、次のとおりです。</p> <p>①外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者</p> <p>③専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者</p> <p>④文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑤高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)で、平成24年4月1日現在満18歳以上の者</p> <p>【外国人留学生】</p> <p>次の各項のすべてに該当する者</p> <p>(1)日本国籍を有しない者で、日本国の永住許可を得ていないもの (日本の国籍を有しない者であっても、日本の高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)を卒業した者又は同等以上の資格を取得した者、及び平成24年3月31日までに卒業(取得)見込みの者は、外国人留学生としての出願はできませんので日本人学生等の区分で出願してください。)</p> <p>(2)次のいずれかに該当する者</p> <p>①外国において学校教育における12年の課程を修了した者又は平成24年3月31日までに修了見込みの者、あるいはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>②スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を授与された者で、平成24年4月1日現在満18歳以上の者</p> <p>③ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を授与された者で、平成24年4月1日現在満18歳以上の者</p> <p>④フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格証書を授与された者で、平成24年4月1日現在満18歳以上の者</p> <p>(3)独立行政法人日本学生支援機構が平成22年11月及び平成23年6月に実施する日本留学試験のいずれかにおいて本学が指定した試験科目(文系:日本語、総合科目/出題言語の指定:日本語のみ)を受験した者</p> <p>(4)出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者(「留学」以外の在留資格を持つ者は、出願できない場合があるので、事前に照会すること。)</p>

## 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験を課さず、以下により行います。

### 【日本人学生等】

個別学力検査等の教科・科目等

小論文、グループディスカッション、面接

(注1)小論文は、英語または中国語で書かれた文章や資料などを読解し、自らの考えを英語及び日本語、あるいは中国語及び日本語で的確に論述できる能力をみます。

(注2)グループディスカッションでは、与えられたテーマに関する議論を英語で行います。なお、グループは、可能な限り日本人学生と外国人留学生の両方が含まれるように構成します。

(注3)面接は、日本語による個人面接の方法で行います。

## 【外国人留学生】

個別学力検査等の教科・科目等

小論文、グループディスカッション、面接

(注1)小論文は、英語または日本語で書かれた文章や資料などを読解し、自らの考えを英語及び日本語、あるいは中国語及び日本語で的確に論述できる能力をみます。

(注2)グループディスカッションでは、与えられたテーマに関する議論を英語で行います。なお、グループは、可能な限り外国人留学生と日本人学生の両方が含まれるように構成します。

(注3)面接は、日本語による個人面接の方法で行います。

### ③スポーツ人材育成コース

人文学部・教育学部(生涯教育課程スポーツ科学コースを除く)・理学部の推薦入試Ⅰの合格者の中から、それぞれの学部での学びに加えて、入学後に副専攻プログラムとしてスポーツ人材育成コースで学ぶことを希望する人を対象に選考します。プログラム修了者には卒業証書とは別に認定証が授与されます。

#### 設置の目的と育成する人材像

所属する学部・学科等の専門分野の学びとスポーツ活動を両立させ、さらに副専攻としてスポーツを科学的に学ぶことで、卒業後はさまざまな職業で活躍しながら、職場でのスポーツの活性化やスポーツを通じた地域貢献を行える人材を育成することを目指します。

#### 教育の特色

- それぞれの所属学部・学科の専門分野に加えて、副専攻として運動時の心身の働き、メカニズムについてスポーツ生理学、スポーツ心理学、トレーニング論を通してスポーツ科学の理論について学びます。
- トレーニング実習や専門実技演習Ⅰ～Ⅲを通して実践について学び、競技力の向上を目指します。
- スポーツ指導やコーチング理論、地域スポーツクラブの運営について学び、競技の指導能力や地域のスポーツ振興に貢献できる力を身につけます。

#### 求める学生像

高校期の生活において学業とスポーツ活動の両立に努め、高いレベルの競技実績を有している者であり、大学入学後も所属する学部・学科の専門分野の学業に励むとともに競技活動を継続し、卒業後もスポーツ活動に積極的に関わっていくことに強い意欲を持っている人材を求めます。

#### 募集人員及び申請資格

募集人員	申請資格
10人	以下の①と②の両方に該当する者 ①人文学部・教育学部(生涯教育課程スポーツ科学コースを除く)・理学部の推薦入試Ⅰの合格者であること ②高校時のスポーツ実績において、都道府県を代表して全国大会に出場したことがあるか、または、それと同程度の能力を有するもので、原則として入学後に大学内で競技(注)が続けられること  (注)競技種目は、次のとおりです。 (サッカー、バレーボール、バスケットボール、硬式野球、陸上競技、体操競技、剣道の7種目)

※「土佐さきがけプログラム」の入学選抜の詳細は、平成23年6月下旬までに公表予定の募集要項等を参照してください。

# 社会のニーズ

科学・技術立国

国際化・国際人

スポーツ立国

## 高知大学「土佐さきがけプログラム」

- 所属学部・学科にとらわれず、文系の学問と理系の学問をバランスよく学びたいなあ...
- 世界的な視点と地域的な視点の両方から問題を考えられる人になりたいなあ...

平成24年度スタート

出でよ平成の龍馬！

